

生涯教育研修活動報告書

一般検査研究班

- 1 実施日時： 令和4年6月16日 19時00分～20時00分
- 2 会場： Web開催 点数：専門-20点
- 3 主題： 一般検査と自動化。パート①
- 4 講師： 藤村 和夫（埼玉県済生会川口総合病院）
室谷 明子（埼玉医科大学国際医療センター）
- 5 協賛： なし
- 6 参加人数： 会員 131名 賛助会員 1名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 渡邊裕樹
小針奈穂美 中川禎己 松本実華 織田喜子

8 研修内容の概要・感想など

今回の研修会は「一般検査と自動化。パート①」のテーマのもと藤村氏、室谷氏を講師にWebにて開催した。

講演1では藤村氏より、尿定性分析装置の比較について講演があった。尿定性検査の自動化は目視判定において生じる個人差の問題を解決するための背景があり、施設間差（ばらつき）が小さくなることも期待された。正確な測定検査を報告するために、機器の取り扱いについては日々の内部精度管理や状態確認が肝要とのことであった。また、実際の機器検討データが提示され、キャリーオーバー試験、干渉試験（乳び・ヘモグロビンの影響）、相関試験の結果より、各分析装置の比較説明があった。また近年、糖尿病の治療薬としてSGLT2阻害剤を服薬されている患者では、尿中に多量なグルコースが排泄されることが報告されている。そこで、高濃度の尿糖が試験紙に与える影響について説明があった。高尿糖検体においては機器メーカーにより異なる試験紙の厚さや検体分注量から、白血球反応、尿蛋白、尿潜血、ケトン体の結果が偽陰性化することがあるとの内容であった。実際、機器更新による検討の機会は少ないが、どの観点から機器の性能評価や仕様確認をすべきかについて再確認でき、大変参考になった。

講演2では室谷氏より、尿定性検査の精度管理方法について講演があった。改正医療法により検体検査の精度保証の確保が必須となった今日、精度管理責任者の配置と内部精度管理

の実施、標準作業書の常備及び従事者への周知、作業日誌・台帳の作成が責務であるとのことであった。臨床検査における品質管理とは、臨床のニーズを満たすことであり、迅速かつ精度の高い検査結果で付加価値情報のある検査結果を提供することがポイントであり、そのために不可欠なのが精度管理である。また、精度管理は検査における全プロセスにおいて重要であり、検査前プロセスは検体採取や運搬、検査中プロセスは受付・機器保守・管理試料・患者試料管理、検査後プロセスは結果報告と、LIS による前回チェックやロジックによる結果確認、また必要時に応じて、電子カルテによる疾患、治療方法、投薬情報などが重要であるとの内容であった。自施設での運用事例や手順書の記載方法例とともに各プロセスについて詳しく説明があり、日常業務における各種手順書の見直し方や PDCA サイクルの考え方について大変参考になった。

臨床検査の自動化が日々進歩していく昨今であるが、機器単独で結果の担保を完全に担えることはなく、精度の確保のためには、機器や検体を正確に扱える検査技師の教育や日頃からの業務手順の見直しがとりわけ重要であると再認識した。自動化運用については各施設多様な実際であるが、参加者それぞれの観点で業務の質向上につながる研修会であった。

提出日 2022 年 7 月 24 日

文責：柿沼智史